津久見市の小児医療・小児保健の向上を目指して

子どもの健康と病気の予防⑨

－ 子どもの新型コロナウイルス感染症について新たな事実 －

小宅医院　小　宅　民　子

新型コロナウイルス感染症はオミクロン株の流行に伴い10歳未満の子どもたちの感染者が急増しました。子どものオミクロン株による流行や、5歳～11歳のワクチン接種について新しい報告があります。

10歳未満の子どもの感染者の多くは無症状や軽症でした。発熱などの症状も大半は数日でおさまっています。しかし、感染者の中にはクループ様症状による呼吸困難や熱性けいれん、熱せん妄などをおこす子どもは少なくありませんでした。少数ですが脳炎・脳症も報告され、稀ですが死亡例の報告もあります。

また、5～11歳の子どものワクチンについても新しい事実がわかっています。

米国におけるオミクロン株に対するワクチンの効果は、5～11歳の子どもは、感染予防効果が31％、入院予防効果は68％でした。日本における副反応の多くは発熱、注射した部位の痛み、倦怠感、頭痛などでした。副反応は大人に比べ頻度は非常に少なく、症状も軽いことがわかってきました。

大分では今年6月下旬ごろよりＲＳウイルス感染症が増加しています。また海外では今シーズンのインフルエンザ感染症の流行が確認されています。今後、新型コロナウイルス感染症とＲＳウイルス感染症やインフルエンザ感染症の同時流行が懸念されます。新型コロナウイルスに免疫がなく、ワクチンを接種していない子どもたちは感染のリスクも高く、感染を広げる要因にもなります。ＲＳウイルスにはワクチンはありませんが、インフルエンザや新型コロナウイルスには子どもを対象としたワクチンがあります。これらのウイルスの同時流行から子どもたちを守るには、ワクチン接種は重要な意味があると思います。

新型コロナウイルスワクチン接種については効果や副反応などのメリット、デメリットを十分考慮しご検討ください。

子どもの新型コロナウイルス感染症について新たな事実５つのポイント

- 感染すると、時に重症化したり、稀に命をおとすこともある。
- ワクチン接種による感染予防、重症化予防効果が報告されている。
- ワクチン接種後の発熱や痛み、倦怠感などの副反応は大人に比べ少なく、軽い。
- 今シーズンはＲＳウイルス、インフルエンザとの同時流行も懸念される。
- ワクチン接種によるメリット、デメリットを十分考慮することが重要。